

令和7年度 長野県産業教育振興会 特別生徒研究助成 報告書

赤穂高等学校 商業科 逢沢 優李

1. 研究テーマ

「スパイスを用いた地域交流」

2. 研究目的

本研究は、本校で開発した商品「赤穂 CuRRY SPiCE」を活用し、体験活動（ワークショップ）や販売活動などを通じて地域の方々との交流を図ることを目的として実施した。スパイスをより身近に感じてもらうとともに、その効果や活用方法について理解を深めていただくことで、地域と学校がつながる活動を目指した。また、高校生自身が地域の中で主体的に関わることにより、商業科で学んできた知識や技術を実践的に活用することも目的とした。

3. 文化祭におけるワークショップの実施

本校文化祭の企画の一つである「カレーフェス」において、「赤穂 CuRRY SPiCE」を題材としたワークショップを実施した。来場者には、スパイスの香りを実際に体験してもらいながら、スパイスの特徴や効能、家庭での活用方法について説明を行った。単に商品を販売するのではなく、「知る」「体験する」ことを重視した内容としたことで、スパイスに対する関心を高めることができた。

参加者からは、「スパイスについて初めて知ることが多かった」「思っていたよりも身近なものだと感じた」「家でも使ってみたい」といった声が多く寄せられ、ワークショップは大変好評であった。また、説明を通して来場者と直接会話をする中で、相手の年齢や知識に合わせて伝え方を工夫する必要性を実感し、コミュニケーション能力の向上につながった。高校生にとって、地域の方々に向けて自分たちの言葉で説明する経験は貴重な学びとなった。



4. 地域イベントへの出店（だがしや楽校 2025 in 上伊那）

文化祭での取り組みをきっかけに、「だがしや楽校 2025 in 上伊那」より出店依頼をいただき、「赤穂 CuRRY SPiCE」の販売を行った。地域イベントへの出店は初めての経験であり、多くの来場者に対して商品や活動内容を説明することに不安もあったが、文化祭での経験を生かし、積極的に声かけを行った。

当日は多くの来場者でにぎわい、スパイスの販売は大盛況となった。来場者からは、「高校生が地域のために頑張っているのがすごい」「応援したくなる活動だと思った」といった温かい言葉をいただき、地域に受け入れられていることを実感した。また、スパイスの使い方や効果について質問を受ける場面も多く、地域の方々の関心の高さを感じた。



5. 活動の成果

本研究の成果として、スパイスを通じて地域の方々との交流を深めることができた点が挙げられる。文化祭でのワークショップや地域イベントへの出店を通して、来場者がスパイスの香りや説明に興味を示し、積極的に質問をしてくださる場面が多く見られた。これにより、「赤穂 CuRRY SPiCE」は単なる商品ではなく、会話や交流を生み出すきっかけとしての役割を果たしたと考えられる。

また、高校生自身が企画から運営、説明、販売までを主体的に行ったことで、商業科で学んできた知識や技能を実践の場で生かすことができた。特に、相手の反応を見ながら説明内容を工夫したり、言葉を選んだりする経験は、教室内の学習では得られない貴重な学びとなった。地域の方々から直接感想や励ましの言葉をいただいたことは、生徒の自信や達成感にもつながった。

さらに、地域イベントへの参加を通して、学校の活動を地域に知ってもらう機会となり、学校と地域とのつながりを深めることができた点も大きな成果であるといえる。

6. 活動の課題

一方で、活動を進める中でいくつかの課題も明らかになった。まず、ワークショップや販売時の説明内容について、担当する生徒によって伝え方に差が出てしまった点である。説明内容をある程度統一し、誰が説明しても分かりやすく伝えられるような資料やマニュアルを準備する必要があると感じた。

また、スパイスにあまりなじみのない方にとっては、専門的な言葉や説明が難しく感じられる場面もあった。そのため、より簡単な言葉や具体例を用いた説明方法を工夫することが今後の課題である。

加えて、活動の記録や振り返りが十分とは言えず、成果を客観的に示す資料が不足していた点も反省点である。写真やアンケート結果、販売数などを整理し、活動の成果を分かりやすくまとめることで、今後の活動や後輩への引き継ぎにも生かせると考えられる。

7. 今後の展望

今後は、今回の活動で得た経験を生かし、ワークショップの内容や説明方法をさらに充実させていきたい。年齢層や興味に応じた説明ができるよう、複数の説明パターンを用意するなどの工夫を行うことで、より多くの人にスパイスの魅力を伝えられると考える。

また、活動の様子や成果を積極的に発信し、地域や学校内に広く知ってもらうことも重要である。ポスターや SNS、校内掲示などを活用し、活動の意義や成果を共有することで、次の活動につなげていきたい。

本研究を通して、高校生が地域と関わりながら学ぶことの意義を強く実感した。「赤穂 CuRRY SPiCE」をきっかけとして、今後も地域とのつながりを大切にしながら、継続的な活動へと発展していくことを期待したい。